

いつまでもいきいき暮らすために

平成29年度
『御影中部・認知症予防と支え合いのまちづくり運動』
2018.3.18
まとめの会

「御影中部 認知症予防と支え合いの



当日は、御影中部の推進委員を始め、ご協力頂いている地域の多職種の方々や、東灘区役所、社会福祉協議会の方等23名の参加で開催されました。

◆**基調講演は、東神戸病院副院長 もの忘れ外来 千古吉孝先生による「東神戸病院 もの忘れ外来の活動の現状」をテーマに、なぜ今もの忘れ外来が必要か・東神戸病院もの忘れ外来開設までの経緯や診療の流れなどをお話いただきました。**

もの忘れ外来は来年で10年を迎えますが、開設までの経緯には伊藤理事長とのつながりも大きかったそうです。もの忘れ外来を受診される方のほぼ半数の方は正常で、認知機能の低下が見られる場合でも、その原因（例えば慢性硬膜下血腫や、脳腫瘍など）によっては、早期に原因を取り除くことで“治る認知症”も多いようです。おかしいかな？と思った時は、恐れずに受診し、早期に発見する重要性も再認識しました。

認知症患者の増加は予想を遥かに超えており、平均寿命の延伸に伴い要支援・要介護者も増え、その約2割が認知症が原因だということです。

東神戸病院では、今後はさらに診断後のフォロー体制や予防・地域との連携、啓蒙活動を進めることが課題であると締めくくられました。

◆◆◆御影中部地域における「認知症予防と支え合いのまちづくりの活動」3年間の歩みと成果◆◆◆

【活動目標】

「認知症を予防し、いつまでも安心して暮らし続けられる御影中町になる」

【5つの活動】

- ・認知症や予防についてまちぐるみで学ぶ
- ・認知症予防サポーター養成講座（年10～12回開催開催／32名のサポーター誕生）
- ・居場所づくり

新たな老人会が発足するなど、サポーター養成講座も含めて18箇所の居場所に年間約400名、延べ5万人が参加。またサポーターにとっても大切な活動の場になっている。

- ・「御影中部・認知症予防と支え合いのまちづくりマップ」作成
地域の居場所をだれでも理解できるように作成。東灘区福祉協議会にもご協力いただいた。
- ・「認知症を早期に発見し、医療や介護、地域の支援に繋ぐ」活動
もの忘れ相談会を年に1～2回実施。（参加者数：延べ70名）
リスクのある人を医療や福祉、地域の居場所に繋いでいる。

◆◆◆『健康な私たちの町をつくるためのアンケート』の実施◆◆◆

地域の皆さんの健康の現状や地域活動への参加状況などを把握することで、3年間の活動を振り返り、今後の活動・方向性を考えることを目的に、御影中町の2つの自治会（中御影区民会・西御影親和会）役員や地域の担当者が中心となってアンケートに取り組みました。

サポーター養成講座や居場所への参加者・地域住民を対象に2000枚配布、回収584枚。地域の身近な方の協力により回収率29.2%と大変高くなりました。アンケートの内容は①年齢、性別、居住地、家族構成などの基本調査②地域での人付き合いや活動に対する考え③健康状態・介護の必要性・もの忘れなどについて④サポーター養成講座や居場所の活動への参加状況。



集計結果からは、3年間の活動の成果を見ることができ、また今後の活動への励みや方向性を考えるために大変意義あるものとなりました。

（アンケートの集計には甲南女子大学の丸尾智実先生にご協力いただきました。）